

ふれあい新聞

(8号) 昭和63年10月1日 田中野田町内会

“わが郷土を語る” (その6) 地区の守り神「地水神さま」などについて

中尾佐之吉

田中野田公会堂の入口のところに三つの石塔がある。

- ①地水二神と三十番神
- ②南無妙法蓮華経 (題目石)
- ③大覚大僧正

嘉永の始めに建立されたことが、石塔に刻まれているので今から140年ほど前に、この土地の住人が祭ったものと思われる。

私が子供の頃にはお年寄りの人が毎日お参りしていた。ところで、前述の石塔に刻まれている大覚大僧正は今から600年ほど前に備前地方に來られ、日蓮法華宗を布教された方である。岡山市で有名な蓮昌寺もこの方の創建と言われている。田中野田に古くからおられる家はほとんど日蓮宗の信者で題目石と大覚大僧正を祭られたのはこのためである。

地水二神とは、地神さま、水神さまのことである。農地と水は稲作農業にとって欠くことできないものであるが、五穀の豊穰を願って私たちの祖先は大地を守る神さま、水を司る神さまをお祭りしているのである。

三十番神は1ヵ月30日間毎日交替して、法華経とその信者を守護する稲荷大明神など30柱の守護神のことである。この石塔も公会堂と同じく区画整理のために移転しなければならなくなっている。

この石塔は前述のように日蓮宗の信者のためにあるように思われるかも知れない。しかし、昔の人は一般に宇宙やこの地球は神や佛が支配しているものと思ひ、神や佛をおそれ、そのお陰をうけたいと熱心に信仰していたのである。科学の進歩した現在、無条件に理由無く神や佛を信ぜられないかも知れないが、いくらか人知が進歩しても不老長寿の薬は作られないのだ。この世に生まれそして老い、必ず死んでゆく弱い人間が強く生きていくための力を、神さまにかしてもらい助けてもらおうと思うのは当然ではなからうか。忘れかけている地水神さまなどを昔の人たちと同じようにお祭りし、この地区の平和と安全をお祈りするのと同じようにしたいものである。

『(続) 地区の問題 あれこれ』

町内会長 中尾佐之吉

前号に引き続き地区の課題二、三について述べさせてもらう

1.公園の整備について

前号で小原正行さんから貴重なご意見を聞かせて頂いた。おっしゃられるご意見は全くその通りなのだ。今土地区画整理組合の区画整理事業で13ヶ所の公園用地が生み出された。そして、いまこの用地は市へ引き継がれている。したがって公園整備は市で行われることになる。市では国の補助を受けながら順次計画的に実施しようとしているが、一度に公園をつくることは無理である。

田中野田が、ランドとして使用させてもらっている公園用地の整備もいましばらく先になると思われる。連合町内会も地元の意向を代表し、市の公園課と話し合いながら地域住民のための公園整備を進めてもらうようにしている。

2.公会堂の移転について

移転先がすぐ決まりそうにない。そこで、公会堂建設委員会に回って、とりあえず田中野田の公園用地あたりにプレハブで仮移転することで進めている。プレハブはアイサワ工業が現場事務所で使用しているもの(3間×6間2階建)を貰い受けることにしている。本建築は保留地、その他も検討して用地を決め、実施するにせよ数年先になる見込みである。

3.用水路の一部せき止めについて

田中野田の63年度区画整理事業で、辰己との境の野田川用水路が新しく整備されることになる。このため中仙道から流れてくる用水路の野田川への合流点から南の水路が工事のため、10月1日からせき止められる。関係者に何かと迷惑がかかるかも知れないが、了承願いたいと市の弁である。

≪ ふれあいの窓 ≫

“人と心のふれあいの生活”

難波恵子 (2組)

私達、家族がここ田中野田に居住させてもらい、はや10年が来ます。ここ3年間程は、町内の各行事にも参加させて頂き、人と人とのふれあい、心と心とのふれあいをさせて頂き大変嬉しく毎日の生活を大いに楽しませて頂いております。

銭太鼓や祭りの他に、主人はゴルフ・ソフトボールなどにも参加し、夫婦ともども、子供の頃の気持ちまでも思い出させてもらっています。ご近所の方々も人情のあふれる人達ばかりで、夫婦ともどもこの田中野田に転居してよかったと心から感謝しております。皆様には、今後ともよろしくお付き合いの程よろしくお願い致します。

“鳥城彫協会に入会して”

鳥城彫協会員
大西宏寿 (8組)

昭和35年、町内に來て28年に成りました。現在は、1階が作業場、2階が寮で立派な建物に成り使い勝手の良い仕事場にて、頑張っています。私達は、身体障害者でハンディキャップを補い、又除去できるように努力すると共に職業、能力や生活能力を可能な限り尽くし、鳥城彫協会の発展の為に会員一同頑張っています。

現在20名、各自が彫刻から仕上げまでをしています。工程が40回程度有り、漆の仕上げは大変難しいものです。私達は皆喜んで使って頂ける製品を作ることが社会復帰への第一歩だと思っています。ですから、今後もより一層そのような製品を多く作れるように努力精進したいと思う次第です。

町内の皆様方には、今後ともよろしくお願い致します。お近くにお出での際は、是非お寄り下さいます様お待ちしております。

“グラウンドの横に 引越して思うこと”

古賀 由恵 (1組)

8月1日、辰己から田中野田グラウンドの横に引越してきて早1ヵ月半が過ぎました。

丁度夏休み中だったのでグラウンドではいろいろな行事が行われフルに活用されているようです。とりわけ夏祭りは町内の大きな行事の一つであるらしく、何日も前から準備され会場が作られていました。当日も盛大で特にカラオケ大会等、プロ顔負けの歌声が聞こえ、私の家の中で一緒に口ずさみながら食事の支度をしました。朝は楽しそうにゲートボールに励むお年寄り達、犬を散歩させる人、ジョギングをする人、さまざまの人達が我が家のまわりで動き出します。

まだまだのどかで、静かな気持ちを味わわせてくれるこのあたり。良い所に引越してきたなと思っています。しかし、休日早朝からのマイクの声、車の列こればかりは予想外です。グラウンドの回りは車でいっぱい。我が家の車庫前にも駐車しある状態です。そして、田んぼをトイレのかわりに使う人の多いこと。

何とかならないでしょうか。又、夜は街灯が無く真暗。せつかくの広いグラウンドです。緑化につとめ整備をして皆さんの憩いの場となる公園になってほしいものです。